

包括的性教育だより

わかやましりつみやしょうがっこう
和歌山市立宮小学校

6年生は、2日間にわけて助産師の浜野優子先生におこし頂き学習しました。1回目は「自分と相手を大切に
する～体と心のこと～」で第二性徴（4年生のお便りもご覧ください）・同意と境界（5年生のお便りもご覧
ください）・恋愛の12段階などについて、2回目は「いのちの誕生」「LGBTQ」という内容でお話をしてく
ださいました。思春期を迎えたみなさんにとって、自分や他の人の体や心の変化にも興味・関心がわいてくる時
期です。そんなみなさんに、自分たちの体について、いつもならちょっとはずかしいなあと思ってしまうこと
も、正しく学べる、そんな時間になったのではないのでしょうか。

※4年生・5年生のおたよりにもこれらの内容について載せていますのでお子様とご覧ください。

『自分と相手を大切に～からだと心のこと～』

1回目の学習では、月経や射精などの第二性徴について振り返り、男子・女子それぞ
れの体の仕組みや心の変化などを学習しました。体や性器の正しい呼び方を学習し、いつ
もはちょっと恥ずかしいなあと思うことも、自分の体を知るために大切なことであるこ
と、そして男女問わずどちらの仕組みも知ることが大切だということをお話してもらいまし
た。「みなさんは「思春期」を迎え、体や心が大きく成長・変化する時期です。体も心も
変化するのは自然なことで、1人1人スピードは違います。悩んだり、不安になったら信
頼できる人に話して。」とみなさんに向けてのメッセージも伝えていただきました。



同意と境界について学習したあと、「お互いを大切にすることってどういうこと？」との質問
がありました。浜野先生は、大切なのは対等な関係だと教えてくれました。これはお互いを
大事にして、どちらが上とか下とか関係なく、意見を言い合える関係のことです。反対に、
強い立場の人が自分勝手に決めてしまうのは支配という関係です。「他の子と遊んじゃだ
め!」「いつも一緒じゃなきゃ嫌だ!」と押し付けるのは、相手を大切にしていることには
なりません。

どんなに仲良しでも、一人一人に「シャボン玉バリア（心と体の境界線）」があります。
このバリアをこわさないために、「相手はどう思っているかな?」と気持ちを聞くこと、
「いいかな?」とそのつど確認すること、「嫌なときは嫌!」と言ってもいいし、相手の
「嫌」も大切にすることなどを大切に守っていきましょうね。



2回目の学習では、『いのちの誕生・多様な性』について学習しました。

いのちの誕生では、精子と卵子の受精からおなかの中での成長、そして出産に至る過程を学びまし
た。妊婦体験や赤ちゃんの人形を抱っこする体験を通して、自分たちがどれほど大切に育てられてき
たかを実感しました。出産は「お母さんの頑張リ」だけでなく、「赤ちゃん自身も必死に産まれて
こようと頑張った」というお話が印象に残った人も多かったのではないのでしょうか。そして「皆さん
の誕生日は、皆さんが自分の力でこの世に産まれてきた記念すべき日です。自分自身を、しっかりほ
めてあげてね」とメッセージを頂きました。



後半の授業では、『性』という漢字は、男性、女性といった意味だけではなく、個性、性格、性
別、天性などその人を表すもの、その人らしさ、その人の持っているものを表していることを
お話をしました。

浜野先生から「みなさんは男・女という性別によって、ちがった扱われかたをされたことはありま
せんか」という質問がありましたね。みなさんも「あるある」と答えていました。「男だから力が
強いはず」「男のくせに足が遅い」「女は力が弱い」「女の子はピンクが好き」……。こうした性別
による思い込みや先入観・偏見を『ジェンダーバイアス』と言います。私たち大人も子どもも、小さい頃
から「男はこう、女はこう」というイメージに囲まれて育ってきたため、つい無意識に決めつけ
てしまいがちです。紹介されたACジャパンのCM『聞こえてきた声』でも、そのことが描かれていま
した。世の中には、まだ性別のイメージが強い職業もあります。性別でくくられずに、できる仕事が増
えてほしいこと、そして男女ではなく『自分になりたい仕事、自分らしさ』を大切にしたいと
話をしてくださいました。



ジェンダーバイアスについて学習したあと、産まれた時の性別（体の性別）と、自分で感じる（心の性別）があることを学習しました。自分で感じる「心の性別」のことを「性自認」といい、これはみんなが持っているものです。

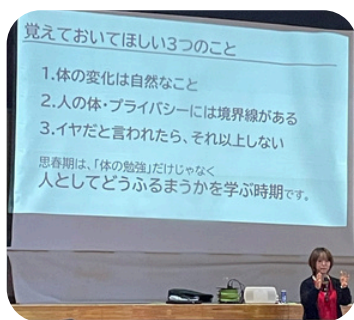
「体の性別」と「心の性別」が同じ人は「シスジェンダー」、違う人を「トランスジェンダー」と言います。また、好きになる相手が異性（性自認が男子なら女子、性自認が女子なら男子）とは限らないことも教わりました。同性を好きになる「ホモセクシャル（同性愛）」、男女どちらも好きになる「バイセクシャル（両性愛）」、自分の性別を決めていない「クエスチョニング」など色々な形があります。これらを、LGBTQ+と呼び、日本では10~20人に1人の割合と言われています。これは「左利きの人」と同じくらいの割合です。

私たちはつい「異性を好きになるのがふつう」と思いがちですが、自分の性別をどう感じるのか、誰を好きになるかは、人それぞれです。異性愛もシスジェンダーという呼び方があり、ふつうという呼び方の人はいません。また、左利きの人には昔は右手に直されていましたが、今では個性として受け入れられているようになっています。

テレビなどでLGBTQ+の人が、レズ、ゲイ、おかまという言葉で面白おかしく扱われることもあります。言葉でも人を傷つけてはいけません。

浜野先生がお話くださったように、性のあり方はみんな一人一人が持っている大切な個性です。誰もが特別ではなく、当たり前に分らなくられる世界を私たちが作っていかなくてははいけません。

授業の様子・児童の感想



・同意の話を聞いた時に、気をつけようと思ったことは、相手に何かものを貸してもらう時などに、気持ちが悪まって相手の話を聞かないということをやりたいです。

・相手が仲の良い友達でも嫌なことは「嫌だ」と断ることが大切だと思いました。

・シャボン玉バリアという言葉が一番心に残りました。それは、自分が嫌だと思うことは、断るということでした。僕は、本当に嫌な時も冗談ぽく言ってしまうので、出来るだけ頑張って言えるようにしたいです。

・思春期は中学生くらいだと思っていたら、一人一人違うことが分かった。

・この授業を通して「自分と相手を大切に」という言葉が一番印象に残っています。命が産まれることや女子と男子の体の違いが変化していくことについて教えてもらい、みんな違う体や性格があること、そしてどれも大切なんだという話が印象に残りました。人にはそれぞれ個性があり「自分を大切にしてほしい」という言葉もありました。これからは、自分の体や命、友達の体や命も大切にしたいと思いました。

僕は妊婦体験をして、思ったより重たくて、歩いたり、下に落ちたものを取るのに苦労しました。妊婦体験は大変で早く外したかったので妊婦さんは大変だと思いました。

私はピンクが好きですが友達に「ピンクが好きとか女やん」と言われました。その時の私は、自分は男だからピンクはダメなのかと思いました。テレビを見ているとピンクの服を着ている人がいたため、自分の好きな色をみんなに言える自信ができました。

・赤ちゃんのことや個性のことも知れました。赤ちゃんのことは、産むお母さんはもちろん産まれる赤ちゃんも頑張っているんだと思いました。人の個性では、男性・女性関係なく自分らしくいるのが大切だと改めて思いました。私もこれから女子だからと思わず、自分らしくいようと思いました。

・これからはまとめて教えてくれたように、ジェンダーバイアスに気付き考えていきたいです。

今までは「男の子だから」「女の子だから」という言葉のどこか決めつけられているような気がしていました。どんな服を着たいかも、全部その人の自由でいいんだと思いました。周りにも色々な考えを持っている友達があります。みんなが「自分らしく」いられるように、決めつけないで相手の話を聞けるようになりたいと思いました。

- ・男の人と女の人と同じ人間なのに体の作りがこんなに違うのかとびっくりしました。
- ・赤ちゃんが何か月で産まれるのか、帝王切開の理由を知らなかったのが知れてよかったです。
- ・自分がどのくらいで産まれるのかどうやって栄養をもらっていたのか、自分がどうやって産まれてきたのか知らなかったのが知れてよかったです。
- ・赤ちゃんはおなかの中でだだ大きくなっているだけではなく、おっぱいを飲む練習や呼吸の練習をしていると聞いてびっくりしました。

知っているかな？ プライベートゾーン

